

見えないけれど《敵はウイルス》

令和2年3月8日午前9時、携帯に施設からの電話が入る。事務員から「留守電に保健所からデイケア利用者で新型コロナウイルスの感染者がでたので利用状況を確認したいので連絡が欲しい。」との一報。考え得る感染防止策は講じてきていた。3月初旬にご利用された方の感染でありその方は、利用当日体温36℃代、諸症状無く1日変わりなく過ごされている。但し、ご主人が体調不良で心配だとおっしゃっていた。その方は最終利用日の2日後に体調不良と連絡がありその日の内に入院された。つまり、無症状の方が2日で重症となりそのまま入院され残念ながら13日後に死亡。そして先に、体調不良であったご主人もその後感染が確定し亡くなられた。無症状から、悪化すればあっという間に重篤になってしまう。3月初旬では身近に症例は殆ど無く、その急変ぶりにウイルスの脅威を実感した。

COVID-19 3つの脅威 ①肺炎の脅威、②経済的脅威、③風評被害・差別の脅威について

- ① 肺炎の脅威、デイケアでの感染者は、利用者25名・スタッフ7名(利用時は全員無症状で、それぞれ5名ずつは最後まで無症状)であった。またご存じの通り**糖尿病の方が重症になりやすく発症から2週間前後でお亡くなりになるケースがはっきり確認された**。デイケア利用者については、様々なデータが揃っており厚労省のクラスター班の方が詳細な分析をされた。我々も同時に進めていく中で感染状況の実態(席・送迎・リハビリ・諸活動)を元に新たな感染対策を講じた。ただ推測がベースで科学的に最初の感染者や感染ルートを特定することは叶わず。
- ② 経済的脅威、デイケアは事業所休止の措置を取る事になりますから当然収入は途切れます。系列の居宅関連サービスも影響を受けますし影響は大きい。デイケアの稼働率は元々85%から15%で再開し現在50%程度、今後も3密を回避させる必要があり難易度は高い。**各給付金や助成金は、支給要件を休止・制限であれば支給とすべき**。
- ③ 風評被害・差別の脅威、完全な人災であり収束後も誤解が解けぬまま影響し続けます。“敵はウイルスのハズが、事業所や人を敵にってしまう”認識を市民に植え付けます。感染判明直後に全ご利用者様と関係事業所に感染の事実と保健所と連携し対応を進めていく事を伝えると**皆さんとても冷静で落ち着いて、励ましの言葉も多く頂いた**。ところが、その直後から不完全な情報がテレビや新聞で大々的に報道されたことで、**自宅待機中の方々が一気にパニックへと変化したのです**。事業所を休止した時点で1次感染のリスクは理論上無くなっており厚労省のクラスター班の検証でも高く評価された。実際に報道された感染者数はPCR検査に9日間もかかってしまい、毎日延々と感染し続けているように映された。**一番の残念は、地元行政が一般市民に向けて、「アルスで感染・死亡」と現場の確認もなく連呼し続け、当法人関係者を診察拒否する病院・診療所を続出させたことだ**。結果、ご利用者様が最も差別を受けたことを行政は理解していない。これを避けるには管轄行政はまず、我々の利用関係者は特定されていることを理解し、テレビやネットではなく**直接情報収集し2次感染リスクの状況把握に努めてほしい**。施設と保健所は一体で1次感染リスクの高い自宅待機者の対応をしますから、そのご家族や同居者への注意喚起支援こそが2次感染防止の合理的な行動と考えます。

当時の入所は手洗い・消毒・マスク・換気を徹底し感染者をゼロに出来た事に希望をつなぎました。現在、消毒は感染前より4倍の量を消費しつつも再感染の不安と恐怖を強く持っています。それでも最後までアルスを信じ続けてくれた多くのご利用者のご家族のエールが、支えになっています。

【施設長からのメッセージ】

施設内に新型コロナウイルスが持ち込まれると、短期間でクラスターが発生するリスクが高い。老健施設は常勤医が存在することで、検査や治療の一部を担わなければならない可能性がある。

① PCR 検査を迅速に！

対象者、担当医、日程を保健所としっかり打ち合わせする必要がある。デイケアの場合、高齢者の自宅待機は介護が必要なため同居人への二次感染のリスクが高い。検査場所まで個別の送迎が必要であり、人員と車の確保、車の送迎ごとの消毒など時間と労力を要する。今回、有症状者は接触者外来で検査、無症状者は施設玄関前で施設医が検査した。入所の場合、共同生活をしているので感染が急速に拡大するリスクが高く早期検査が極めて重要である。送迎の必要がないため、施設のバルコニー等で検体採取することができ比較的短時間で多人数の検査が可能である。

② 感染者は必ず入院！

入所で感染が疑われる者は個室管理を行い、PCR 検査陽性であれば速やかに入院調整を行う。高齢者は病状が急に悪化することがあり、症状の軽重にかかわらず入院とする。濃厚接触者の施設内隔離、ゾーニング、飛沫・接触感染対策などが必須となるため、施設での管理には限界があり、感染者は早期入院が大原則である。

③ 医療・介護の協力支援体制の確立！

感染爆発時の、感染者・感染疑い者・コロナ以外の患者の診療に関して、基幹病院・一般病院・開業医の役割分担を明確にしておくことが大切である。また、施設医が感染した場合における医師会等の協力体制の構築も望まれる。介護職員が感染して人員が不足する場合に他施設から応援職員を派遣する協力支援体制が兵庫県では現在構築されつつある。

【デイケア感染者スタッフの声】

- ① 他人事と思っていたコロナに感染してしまい、40℃を超える熱が5日間続きました。退院後の体力低下が著しく、本当にコロナはしんどい。
- ・ 軽症で入院中にテレビで、クラスターや感染者が悪者扱いされているのを見て落ち込む日々が続き体力もかなり落ちていった。
- ・ 無症状のまま1カ月間陽性が継続し不安がつのった。今も外出は控えています。

【デイケア自宅待機スタッフの声】

- ① テレワークで自宅待機者の健康観察中、クラスターが報道されるにつれ大きくなった怒りの対応に追われ辛かった。さらに無症状の感染者を知りコロナの恐ろしさを実感した。
- ・ 自分は陰性であったので保健所の要請でPCR検査の送迎を行ったが、陽性者を医療センターまで複数回送迎したのは恐怖でしかなかった。
- ② ご利用者様から、診察を拒否される話を何度も聞かされ申し訳ない気持ちで一杯だった。
- ・ 陰性確定でも、副校長から「そんなこと関係ない」と言われ卒業式に出れず辛かった。
- ・ PCR検査の為の送迎中に、保険所の要請を受け決死の覚悟でやっているのに指をさされたり写メを撮られた。不安でいっぱいの中、主任が話を聞いてくれたり事務の方も笑顔でいてくれ皆が前を向っていて乗り切れた。

- ・再開後に、ご利用者様から励ましや労いの言葉を頂き感謝しかありません。
- ・コロナについては正確な情報が分からない中、アルスが設けた基準を信じて対策します。今回の騒動でより一層介護の仕事に責任と誇りを感じています。

【事務スタッフの声】

- ・デイケアスタッフ不在の中、全ての対応を限られたスタッフでこなした。怒鳴られ威圧される対応に涙したが、様々な方々の心ある励ましの声に救われうれし涙した。